

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-133	12-307	慶應義塾大学
<b>題名（原題／訳）</b>		
<p>Brief motivational interviewing intervention for peer violence and alcohol use in teens: one-year follow-up.</p> <p>10 歳代の若者へのピア暴力とアルコール問題のための短期動機面接介入：1 年後の追跡調査</p>		
<b>執筆者</b>		
Cunningham RM, Chermack ST, Zimmerman MA, Shope JT, Bingham CR, Blow FC, Walton MA.		
<b>掲載誌</b>		
Pediatrics. 2012 Jun;129(6):1083-90. doi:		
<b>キーワード</b>		
アルコール問題、若年者、短期動機づけ面接介入		
<b>要 旨</b>		
<p>目的：</p> <p>救急外来（ED）へ受診は、都会に住む若者の間で将来の損傷の危険をもたらす暴力とアルコール誤用を減らすための短期介入（BI）のよい機会となる。過去の分析は、BI はその後 6 ヶ月間暴力とアルコールによる問題を減少させることを証明した。本論文は 12 ヶ月後のピア暴力とアルコール誤用に対する BI の有効性を調査する。</p> <p>方法：</p> <p>ED を受診した過去のアルコール摂取と攻撃性を報告する 14-18 歳の患者を無作為抽出試験に登録した。コンピュータ化された評価をおこない、対照群とコンピュータまたはコンピュータを利用しセラピストによる BI に無作為に割当てられた。ベースラインと 12 ヶ月後に評価する主な転帰尺度は、暴力（ピア攻撃性、ピア犠牲、暴力関連の結果）とアルコール（アルコール誤用、大量一気のみ（binge）飲酒、アルコール関連問題）であった。</p> <p>結果：</p> <p>合計 3338 人の若者がスクリーニングされ（88%の参加）、その中 726 名は暴力とアルコール摂取の問題があるとされ、ランダム化割り振られた。84%が 12 ヶ月後の追跡調査を完了した。対照群と比較し、コンピュータを利用したセラピストによる BI 群は、12 ヶ月後でピア攻撃性（<math>P &lt; .01</math>）とピア犠牲（<math>P &lt; .05</math>）の有意の減少を示した。BI と対照群は 12 ヶ月後のアルコール関連の変数の上で相違はなかった。</p> <p>結論：</p> <p>SafERteens 介入の評価により、コンピューターを利用したセラピスト短期介入が ED 訪問の 1 年後にピア暴力を減らすために有効であることが明らかとなった。</p>		